【31】

氏　名（国籍）	屈（くつ）　国（こく）　鋒（ほう）（中　国）
学位の種類	博　士（体育科学）
学位記番号	博　甲　第　4494　号
学位授与年月日	平成 19 年 7 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
審査研究科	人間総合科学研究科
学位論文題目	**養生武術の形成過程に関する研究** －民間武術から太極拳への変遷を中心に－

主　査	筑波大学教授	博士（文学）	佐藤　臣彦
副　査	筑波大学教授	博士（学術）	藤堂　良明
副　査	筑波大学准教授	博士（体育科学）	酒井　利信
副　査	筑波大学准教授	教育学博士	清水　　諭
副　査	筑波大学教授	文学博士	佐藤　責悦

論文の内容の要旨

(1) 研究目的

本研究は，長い歴史をもつ中国武術において，殺傷を目的とする武技から健康や体質改善を目的とする養生武術が派生してきた経緯について，「民間武術から太極拳への変遷」という視座のなかで具体的に把握することを目指している。すなわち，「養生」という視点から見た太極拳の形成過程が具体的にどのようなもので，本来，武技を基本とする「武術」から，いかなる背景のもとで中国文化に特徴的な「養生武術」として成立したかを明らかにしようとするものである。

(2) 研究方法

上の研究目的を達成するため，①民間武術における養生の受容の様相を明らかにすること，②実践的兵法書である戚継光『紀効新書』における「拳経」の具体的技法を明らかにすること，③陳氏太極拳の養生的性格を明らかにすること，④陳氏太極拳と楊氏太極拳の相互影響による養生武術としての太極拳の成立過程を明らかにすること，という 4 つの課題を設定し，それぞれの課題に即した基本文献を中心に分析と考察をすすめる手法を展開している。①では，『史記』『漢書』『後漢書』『三国志』などを基本資料としながら，原始道教である五斗米道や太平道における「養生」，および太極拳の始祖とされる張三丰の伝説的性格をあきらかにする手順を踏み，②については，『紀効新書･拳経捷要編第十四』を基本資料としつつ，『北堂書鈔』『太平御覧』などによって武術の養生的側面を剔抉する手法をとっている。また，③では，陳王廷『拳経総歌』，陳長興『陳氏太極拳十代要訣』，陳鑫『陳氏太極拳図説』の比較分析によって，「養生」という観点からの三者の特質を明らかにすることを試み，④では，王宋岳『太極拳論』，武禹襄『太極拳解』，伝書『太極拳譜』を中心に，楊氏太極拳の技術的特徴と養生的性格を明らかにし，陳氏太極拳との相互影響の様相を描くことで課題に肉薄しようとしている。

(3) 論文構成と概要

本論文は，序章（①研究の目的，②先行研究の検討と研究の課題，③研究の方法，④用語の規定，⑤文献資料について），本論全４章，および終章（結論および今後の課題）によって構成されている。

第一章「民間拳法における養生文化の受容」では，民間武術である拳法の養生的性格を解明するには，民間信仰の根底にある道教思想における「養生」との関連を考察する必要があるとして，まず第一節「民間武術における社会環境の様相」において，原始道教である五斗米道や太平道において養生がどのようなものであったかを検討し，「黄巾軍」の興亡過程に見られる武術と養生の関連を明らかにしている。第二節「民間武術における道教養生文化の受容」では，道教養生における外丹法及び内丹法を検討しつつ，「套路」と呼ばれる民間武術の運動形式が養生的性格を有していたことを論じたのち，第三節「道教養生文化の展開における民間拳法の発展」では，道教団体の養生活動と武術との関連を考察した上で，太極拳の始祖とされる張三丰の道教における地位と民間拳法に与えた影響を明らかにしている。また第四節「明朝後期の民間拳法の特徴」では，『張松溪伝』『王征南墓誌銘』『内家拳法』『峨嵋山道人拳歌』等の史料を中心としつつ，民間拳法の技法と性格を明らかにしている。

第二章「戚継光三十二勢長拳の様相」では，中国武術史において画期的な飛躍を遂げたとされる明朝末期に著された『紀効新書』を中心に，そこに展開された「拳経」の技法を具体的に分析しつつ，民間拳法の継承と発展を考察している。第一節「戚氏長拳の継承関係について」では，戚継光以前の軍隊武術の様相を明らかにした上で，彼の武器武術と「長拳」の民間拳法への影響について論じている。第二節「戚氏長拳の特徴と性格」では，戚氏長拳を技術論的に考察したうえで，『紀効新書』に取り込まれたねらいを兵法的観点よりも「対己的身体性」にあったとしている。第三節「陳氏拳法と『拳経』及び内家拳との関係」では，陳王廷『拳経総歌』の分析によって，王廷拳法の実戦的性格と養生的性格それぞれを検討したうえで，長拳，内家拳からの継承性を明らかにしている。

第三章「陳氏太極拳の形成及びその養生的性格の変遷」では，これまで十分には明らかにされてきていない陳氏太極拳における実戦的側面と養生的側面との相克の様相を具体的に示そうとしている。第一節「陳氏拳法とそれをとりまく社会環境」では，『陳氏家乗』に見える武功の伝記，陳王廷，陳長興，陳鑫におけるそれぞれの時代背景，養生の文化的背景の相違を明らかにし，第二節「陳氏太極拳の技術的特徴と性格」では，上記三者における拳法論の分析を通して，それぞれの拳法の性格的特徴を示しつつ，陳氏拳法から陳氏太極拳への変遷過程を明らかにしている。

第四章「楊氏太極拳における養生的性格の展開」では，陳氏拳法の影響下に成立した楊氏太極拳について，その拳法思想がどのような継承過程をたどり，養生的性格がどのような背景のもとに打ち出されてきたかについて，伝書『太極拳譜』を中心に考察している。第一節「楊氏太極拳における王宋岳の拳法思想の受容と展開」では，王宋学の『太極拳論』や武禹襄の『太極拳解』に拠りながら，楊氏太極拳の拳法思想の起源がどこにあり，どのように継承されてきたかについて，具体的に考察している。第二節「楊氏太極拳における技術的特徴と養生的性格」では，伝書『太極拳譜』を中心とする分析によって，この拳法の技術的特徴を抽出するとともに，養生的性格について明らかにしている。第三節「楊氏太極拳における養生的性格の形成の要因」では，楊氏太極拳が養生的性格を強めるに至った社会的背景について検討し，武術の実践的役割の後退，近代における急速な都市化などの要因について考察している。第四節「現代の太極拳における楊氏太極拳の意義」では，養生的性格を強く打ち出すことによって太極拳が広く普及する条件を整えた楊氏太極拳の現代的意義について，他の流派との比較を通して明らかにしている。

以上が「養生武術の形成過程に関する研究」をテーマとする本論文の概要であるが，民間拳法から太極拳の形成過程の考察を通して，中国文化において独自の発展をなし遂げた「養生武術」（現代にあっては「健康のための武術」）がどのような契機によって成立し，どのような身体技法的特質を有するものであるのか

が明らかになったとし，「新たな転機が求められている中国武術の発展の方向性を考えるうえで，有益な示唆を与えるものである」と結論づけている。

審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は，中国独自の文化でありながら，現在，世界的に普及しつつある「太極拳」の成立過程と身体技法的特質について，「養生武術」をいう新たな概念を提示した上で，①民間武術における養生の受容の様相を明らかにすること，②実践的兵法書である戚継光『紀効新書』における「拳経」の具体的技法を明らかにすること，③陳氏太極拳の養生的性格を明らかにすること，④陳氏太極拳と楊氏太極拳の相互影響による養生武術としての太極拳の成立過程を明らかにすること，の４つの研究課題を設定し考察を進めたものである。方法的には，これまで武術研究の資料としては比較的等閑視されてきた古典的著作や史書などの作品を広く渉猟するとともに，兵法書，武術書などの記述を丹念にあたって技術論的な考察を加え，さらに，第一次資料である「伝書」に典拠を求めることで，論の展開に万全を期している。こうした着実な手法により，有史以来の中国武術の展開について，「養生武術」という新たな概念を設定することで一貫した統一的考察が可能となることを示した点は，本研究の大きな成果である。内容的にも，これまでの研究史において懸案事項とされてきたいくつかの点（例：兵法書である『紀効新書』になぜ「拳経」がとりこまれたのか，実践的性格の強かった民間武術がなぜ養生的太極拳に繋がったのか，など）について，着実な典拠に基づいた説得的な所論を展開しており，さらに，民間拳法における「套路」，兵法書に展開されている「拳経」を技術論的観点から分析し，現代太極拳との類似性を数量的に明らかにしたことについても高く評価できる。

今後の課題としては，特に現代中国において「太極拳」が広く普及していることについての国家政策的背景を研究することの必要性が指摘されたが，総じて，日本語の水準も高く，問題の立て方，資料の取り扱い方，考察の展開にも妥当性があるとして，学位論文としての水準に十分達していると評価された。

よって，著者は博士（体育科学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。